

平成30年度全国学力・学習状況調査

概 要

平成30年4月17日に実施した「全国学力・学習状況調査」の結果についてお知らせします。

この調査の目的は、以下のとおりです。

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であることや、学校における教育活動の一側面に過ぎないことをご理解ください。

実施の状況

(1) 調査の対象 小学校第6学年の全児童、中学校第3学年の全生徒

(2) 調査内容 ①教科に関する調査

国語、算数・数学、理科の3教科

国語及び算数・数学については、A・B2種類の調査がある。

A・・・主として「知識」に関する問題

B・・・主として「活用」に関する問題

②質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

教科に関する調査結果

【調査結果の見方】

◇「町平均」の数値は、平成30年度全国学力・学習状況調査において、猪名川町内の小学校6年生と中学校3年生それぞれの児童生徒全員（実施した児童生徒）の平均値を表したものです。

◇「全国平均」の数値は、平成30年度全国学力・学習状況調査において、調査対象となった全国の公立小中学校在籍の児童生徒全員（実施した児童生徒）の平均値を表したものです。

◇分析の基準

「町平均」と「全国平均」との比較に関しては、以下の基準で表現しています。

平均正答率を全国と比較

・+5ポイントより高い → 「上回る」「良好である」等

・-5ポイントより低い → 「下回る」「課題がある」等

・±5ポイント以内 → 「±5ポイントの範囲内にあり、全国と大きな差は見られない」

猪名川町の児童生徒は、国語、算数・数学、理科ともに、今回出題された学習内容をおおむね理解しているものの、全国の傾向と同様に、「知識」に比べて「活用」（知識や技能を活用する力、応用力）にやや課題が見られます。また、小学校において、無回答率が全国平均より高い問題が多いのも課題です。

【小学校】6年生

教科	町平均正答率	全国（公立） 平均正答率	全国との差
国語 A	69%	70.7%	－2ポイント
国語 B	51%	54.7%	－4ポイント
算数 A	62%	63.5%	－2ポイント
算数 B	51%	51.5%	－1ポイント
理科	57%	60.3%	－3ポイント

国語 A （知識）	・調査結果は、±5ポイントの範囲内にあり、全国と大きな差は見られない（各領域とも）。 ・設問別に見ると、「学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく使う（セツ備）」問題や、「登場人物の心情について、情景描写を基に捉える」問題（読むこと）に課題がある。
国語 B （活用）	・調査結果は、±5ポイントの範囲内にあり、全国と大きな差は見られない。 ・「読むこと」の領域が全国を下回り、課題がある。 ・設問別に見ると、「目的や意図に応じて、文章全体の構成の効果を考えたり、内容の中心を明確にして、詳しく書いたりする」問題（書くこと）、「目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読む」問題（読むこと）に課題がある。
算数 A （知識）	・調査結果は、±5ポイントの範囲内にあり、全国と大きな差は見られない。 ・設問別に見ると、「1に当たる大きさを求める問題場面における数量の関係を理解し、数直線上に表すことができる」問題（数と計算）、「示された表現方法を基に、空間の中にあるものの位置を表現することができる」問題（図形）に課題がある。
算数 B （活用）	・調査結果は、±5ポイントの範囲内にあり、全国と大きな差は見られない（各領域とも）。 ・設問別に見ると、「合同な正三角形で敷き詰められた模様の中に、条件に合う図形を見いだすことができる」問題（図形）や、「棒グラフと帯グラフから読み取ることができることを、適切に判断することができる」問題（数量関係）に課題がある。

理科	・調査結果は、±5ポイントの範囲内にあり、全国と大きな差は見られない（各区分とも）。 ・設問別にみると、「調べた結果について考察する際に、問題に対応した視点で分析できる」問題（生命）が良好である。 しかし、「骨と骨のつなぎ目について、科学的な言葉や概念を理解している」問題（生命）や、「土地の侵食について、予想を確かめられた場合に得られる結果を見通して実験を構想できる」問題（地球）、「乾電池のつなぎ方を変えると電流の向きが変わることを実際の回路に適用できる」問題（エネルギー）、「物を水に溶かしても全体の重さは変わらないことを、食塩を溶かして体積が増えた食塩水に適用できる」問題（物質）に課題がある。
----	--

【中学校】3年生

教科	町平均正答率	全国（公立） 平均正答率	全国との差
国語 A	80%	76.1%	+4ポイント
国語 B	63%	61.2%	+2ポイント
数学 A	69%	66.1%	+3ポイント
数学 B	50%	46.9%	+3ポイント
理科	68%	66.1%	+2ポイント

国語 A （知識）	・調査結果は、±5ポイントの範囲内にあり、全国と大きな差は見られない（各領域とも）。 ・設問別に見ると、「場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解する」（読むこと）問題や、「語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う」「歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読む」問題（伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項）が良好である。 しかし、「行書の基礎的な書き方を理解して書く」問題（伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項）に課題がある。
国語 B （活用）	・調査結果は、±5ポイントの範囲内にあり、全国と大きな差は見られない（各領域とも）。 ・設問別に見ると、「全体と部分との関係に注意して相手の反応を踏まえながら話す」問題（話すこと・聞くこと）に課題がある。
数学 A （知識）	・調査結果は、±5ポイントの範囲内にあり、全国と大きな差は見られない（各領域とも）。 ・設問別に見ると、「絶対値の意味を理解している」問題、「具体的な場面で関係を表す式を、等式の性質を用いて、目的に応じて変形することができる」問題（数と式）や、「比例 $y = ax$ における比例定数 a の意味を理解している」問題（関数）が良好である。

数学B (活用)	・調査結果は、±5ポイントの範囲内にあり、全国と大きな差は見られない(各領域とも)。 ・設問別に見ると、「与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理することができる」問題(資料の活用)や、「グラフから必要な情報を読み取り、事象を数学的に解釈することができる」問題(関数)、「付加された条件下で、新たな事柄を見いだし、説明することができる」問題(図形)が良好である。
理科	・調査結果は、±5ポイントの範囲内にあり、全国と大きな差は見られない(各区分とも)。 ・設問別にみると、「電流計は回路に直列に接続するという技能及び電流計の電気用図記号の知識を身に付けている」問題(物理)や、「緊急地震速報を受け取ってからS波による揺れが始まるまでの時間が最も長い観測地点で指摘できる」問題(地学)、「アルミニウムの原子の記号の表し方についての知識を身に付けている」問題(化学)が良好である。 しかし、「温度が異なる食塩水のうち、特定の質量パーセント濃度のものを指摘できる」問題(化学)に課題がある。

生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査結果

基本的生活習慣、学習に関する関心・意欲・態度、家庭でのコミュニケーション、規範意識など小学校は62の項目、中学校は59の項目について調査が行われました。

この調査の結果は、以下のとおりです。

なお、肯定的な回答をした児童生徒の割合が、全国平均と比べて＋5ポイントより高いものを「肯定的な回答が多かった質問」、－5ポイントより低いものを「肯定的な回答が少なかった質問」として挙げています。

【小学校】

肯定的な回答が多かった質問

- ・今住んでいる地域の行事に参加している。

肯定的な回答が少なかった質問

- ・先生は、あなたのよいところを認めてくれている。
- ・家で、学校の授業の予習・復習をしている。
- ・家で予習・復習やテスト勉強などの自学自習において、教科書を使いながら学習をしている。
- ・地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある。
- ・地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある。
- ・新聞を読む。
- ・理科の授業で、学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える。
- ・理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てている。
- ・理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えている。
- ・理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えている。
- ・5年生の時、理科の授業を受けた後に、習ったことに関わることで、もっと知りたいことができた。
- ・今、社会のことがらや自然のことがらに、「不思議だな」「おもしろいな」などと思う。
- ・5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分たちで考え、自分から取り組んでいたと思う。
- ・5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思う。
- ・調査問題の解答時間は十分であった。：国語A・B、算数A・B
(やや足りなかった、全く足りなかったと回答した児童の割合)

【中学校】

肯定的な回答が多かった質問

- ・今住んでいる地域の行事に参加している。

肯定的な回答が少なかった質問

- ・先生は、あなたのよいところを認めてくれている。
- ・家で、自分で計画を立てて勉強をしている。
- ・家で、学校の授業の予習・復習をしている。
- ・学校の授業時間以外に、平日、1日当たり30分以上読書する。
- ・2年生までに受けた授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があったと思う。
- ・地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある。
- ・数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える。
- ・数学の授業で学習してきたことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。
- ・数学の授業で公式や決まりを習うとき、その根拠を理解するようにしている。
- ・理科は好きである。
- ・自然の中で遊んだことや自然観察をしたことがある。
- ・理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える。
- ・理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。
- ・理科の授業で、自分の考えや考察をまわりの人に説明したり発表したりしている。
- ・観察や実験を行うことは好き。
- ・理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てている。
- ・理科の授業で、観察や実験の結果をもとに考察している。
- ・理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えている。
- ・1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分たちで考え、自分から取り組んでいたと思う。
- ・1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思う。
- ・生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う。

猪名川町の学力向上の取組について

猪名川町教育委員会では、学力向上に特化した施策として策定した「いなぼう学力アッププラン（猪名川町学力向上プラン）」（平成30年4月施行）に基づき、各学校・園において、教員の授業力向上を図るとともに、子どもたち一人一人の学力を確実に身に付けさせる「一人も見捨てない教育」を推進しています。また、今回の調査結果や過去の調査結果を基に、猪名川町の児童生徒の学力向上のため、継続的な検証改善に努めてまいります。

①キャリア教育の推進【継続】

子どもたちが、将来、社会的・職業的に自立し、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現するために、幼・小・中学校園の11年間をかけて「キャリア教育」を推進します。

また、「なぜ学ぶのか」という意義を、自分の夢や目標、将来像と結び付けてしっかりと認識させ、その実現に向けて努力しようとする態度を培います。

さらに、子どもたちが学ぶことの意義を実感し、将来の生き方を見付けられるよう、子どもたちの内面的な成長を支援して教育活動を推進することにより、目的意識、学習意欲の高揚を図り、学力の定着を目指します。

②英語教育強化推進事業（幼稚園・小学校へのALT派遣事業、小学校教員英語指導力向上事業）【継続】

グローバル化が加速する社会の中にあって、豊かな語学力・コミュニケーション能力、異文化理解の精神を身に付けた、国際的に活躍できる人材の育成が必要な時代が到来しています。このことから、本町では、幼稚園及び小学校の外国語（英語）活動の全授業にALTを派遣し、ネイティブな英語に慣れ親しむ機会を設けています。

また、平成32年度から小学校5・6年に英語が教科化になり、3・4年に外国語活動が導入されることから、小学校教員の英語に対する苦手意識を払拭し、教員自身の英語コミュニケーション能力を高め、英語の指導力を向上させるため、兵庫教育大学等と連携して英語指導の講師を招へいし、実践的な英語指導法の研修を実施しています。

③教育情報化推進事業（学校ICTの整備）【拡充】

小・中学校の教室にすでに配備している電子黒板機能付き大型ディスプレイ（テレビ、プロジェクター）、実物投影機、タブレット端末を各教科の授業等において積極的に活用することにより、児童生徒にとって分かりやすく学習意欲の高まる授業を実施するとともに、児童生徒が電子黒板やタブレット端末を活用して意見交換や発表をするなど、互いに高め合う学びを通じて、思考力・判断力・表現力などの育成を図ります。

さらに、効果的な活用のために、教員の研修・研究を推進し、子どもたちが学ぶ楽しさや喜びを実感できる授業を実践します。

④いなぼうチャレンジ オンライン学習【継続】

さまざまな事情により、家庭学習が不十分なため、学力が定着しない児童生徒が少なからずいます。学校外における学習環境の不均衡を緩和し、自主的に学ぶ姿勢を身に付けさせて児童生徒の進路を保障するため、平成28年度より、町内全中学校の生徒を対象にオンライン学習サービス（いなぼうチャレンジ オンライン学習）を導入しています。各家庭等においてパソコンやタブレット端末などを使用した家庭学習に取り組むことができます。

また、インターネット環境が整っていない生徒や学習につまずきのある生徒を対象として、放課後等の時間帯に学校へオンライン学習指導員を派遣し、オンライン学習の支援を行い、学力の底上げに取り組んでいます。

⑤読書活動の推進【継続】

全国学力・学習状況調査の分析の結果、「読書活動」の推進が学力向上につながるということが明らかになっていることから、各校における読書活動の更なる推進を図ります。

そのため町立小・中学校全校に学校図書館専任の「学校図書館司書」または「学校図書館支援員」を配置しています。

⑥町学習到達度調査の実施及び活用【継続】

全小5児童（国・算）・中2生徒（国・数・英）を対象に、町独自で学習到達度調査を実施するとともに、調査結果を分析し、学習評価支援システムを有効活用することにより、児童生徒の学力向上を図っています。

また、児童生徒の家庭・学校・地域における生活実態調査を実施し、その結果も併せて分析し、児童生徒の学習支援に役立てます。

⑦いなぼう学習タイム～放課後の補充学習における学習サポーター派遣事業～【継続】

小・中学校の児童生徒の学力向上に向けて、小学校においては国語・算数、中学校においては国語・数学・英語の各教科の基礎・基本の定着に課題のある児童生徒への個別の学習支援が必要と考えています。

このことから、小・中学校を対象に、放課後における補充学習の時間に、「学習サポーター」を派遣し、児童生徒への適切な学習支援を行い、基礎・基本の確実な定着を図っています。

⑧町教育委員会による学力向上に係る研究指定の推進【継続】

学力向上に係る研究指定を更に推進するため、町教委として学力向上に係る研究指定の拡充を図っていきます。

「英語教育推進校」、「学力向上～未来を切り拓く力の育成～推進校」等

⑨町教育委員会主催 学力向上研修会・講演会の開催【継続】

各校の全国学力・学習状況調査や町学習到達度調査の結果を踏まえて、取組状況を交流しています。そして、本研修会に参加した教員を中心に、各校において組織的に学力向上の取組を推進します。

また、学力向上に係る専門の講師を招へいし、学校・園の教員を対象に学力向上に特化した講演会を開催し、学力向上の方策について研修を深めています。

⑩授業（保育）のユニバーサルデザイン化の推進【継続】

町内全幼稚園、小学校、中学校において、「授業（保育）のユニバーサルデザイン化」を推進することにより、「どの幼児児童生徒も分かる・できる授業（保育）」を目指し、全ての幼児児童生徒の学力向上を図っています。

⑪授業力向上のための講師派遣の推進【継続】

若手教員や臨時的任用教員等の授業力向上を図るために、各校において専門の講師を招へいして、指導助言を受けることにより、授業力のレベルアップを目指します。

⑫校（園）内授業（保育）研究への支援【継続】

学校・園からの要請に応じて、幼稚園、小・中学校へ学校教育指導員及び指導主事を派遣し、授業（保育）づくりや教員としての基礎・基本の指導を行うとともに、学力ア

ップにつながる指導法について助言を行っています。

⑬少人数授業・同室複数指導及び小学校における交換授業の推進【継続】

県教育委員会の新学習システムの制度を活用し、少人数による授業・同室複数指導による授業を推進しています。また、小学校においては、中学校での教科担任制への円滑な接続を図るため、5・6年において一部の授業を交換することによる教科担任制を推進しています。

⑭幼・小・中連携の強化【継続】

各中学校ブロックにおいて、幼稚園、小学校、中学校の連携を強化し、11年間を通してブロック内の全教員が全幼児児童生徒の学力向上に取り組んでいます。

⑮児童生徒の生活習慣・食生活改善の推進【継続】

小学校4年生及び中学校2年生を対象に、「生活習慣・食生活に関するアンケート」を実施するとともに、アンケート結果を分析し、その分析結果を基に各小・中学校において、児童生徒や保護者を対象に専門医による講演会を開催し、児童生徒の生活習慣や食生活の改善を図られるよう啓発を行っています。このことにより、児童生徒が授業や学習に集中して取り組めるという効果が期待できます。

⑯スクールソーシャルワーカーの配置・派遣【継続】

学校において校内ケース会議を開催し、社会福祉を専門とするスクールソーシャルワーカーによる助言を得ながら、児童生徒を取り巻く生活環境を含めたアセスメント（見立て）と問題解決のプランニング（手立て）を行い、学校や家庭及び関係機関の連携による適切な支援を行うとともに、校内支援体制の強化及び教職員の指導力・対応力の向上を図っています。このことにより、児童生徒が落ち着いて学習できる環境を整備します。

⑰中学校における教育・心理テスト（Hyper-QU）の実施及び活用の推進【継続】

中学校の全生徒を対象に、年2回「教育・心理テスト（Hyper-QU）」を実施するとともに、分析結果を基に、教職員の研修を行い、学級指導や個別指導に生かしていくことにより、いじめ、不登校、学級崩壊等を未然に防止し、集中して学習に取り組める学習環境づくりに努めています。

⑱スクールカウンセラーの配置【継続】

保護者や児童生徒の不安や悩みを解消するとともに、いじめや不登校等を解消することにより、家庭等において学習できる環境づくりに努めています。

各学校においても、学校全体や児童生徒個々の結果を全国や町の結果と比較・分析し、児童生徒の実態把握に努めています。そして、各校においてこれまで取り組んできた教育活動の成果を検証し、全ての子どもにとって分かりやすい授業づくりに努めています。

学力向上のための今後の改善方策について

【猪名川町の学力の課題】

平成30年度全国学力・学習状況調査（小学6年生、中学3年生対象）結果及び過去数年間の同調査結果、猪名川町学習到達度調査（小学5年生、中学2年生対象）の結果から、猪名川町の児童生徒の学力と学習習慣について、次のような課題があることが判明しました。

- ・国語では「書くこと」の領域に課題がある。[小学校]
- ・算数では「図形」の領域に課題がある。[小学校]
- ・無回答率が高い。[小学校]
- ・家庭学習について、「計画性」や「予習・復習」の評価が低い。[小学校、中学校]
- ・新聞を読む量が少ない。[小学校] 読書量が少ない。[中学校]

【これまで効果のあった取組】

全国学力・学習状況調査結果及び猪名川町学習到達度調査結果を同一集団内で経年比較した結果、学力向上に特に効果があったのは、次の取組でした。

- ・放課後学習（いなぼう学習タイム）
- ・新学習システムの充実による少人数授業・同室複数指導等、個に応じた丁寧な指導
- ・ICT機器を活用した、児童生徒にとって分かりやすく学習意欲の高まる授業の実施

【今後の改善方策】

以上の結果から、以下の改善方策に重点的に取り組み、児童生徒の学力向上に努めていきます。

■授業改善

- ・「主体的・対話的で深い学び」の推進
- ・系統的な視点でとらえた「つまずき解消」の実践
- ・「めあて」「見通し」「まとめ」「振り返り」の推進

■家庭学習の定着

- ・放課後学習の充実・拡充
- ・いなぼうチャレンジ（オンライン学習）の推進 [中学校]
- ・宿題の量、出し方の工夫や家庭学習の推進（具体的な取り組み方の教示等）

■読書活動の推進

- ・学校図書館の充実